

2019年度(平成31年度)学校評価自己評価表

常金中学校区	校番 66	福山市立 常金丸小学校
最終更新日		2019年(平成31年)4月1日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 ○成果が表れており、取組を継続してほしい。さらに子ども自身でやれるようにしてほしい。 ○子どもを伸び伸びと育て、自己肯定感を高めてほしい。 ○家庭での親の子どもへの関わり方も大切だ。地域でも取り組んでいく。	児童生徒の現状 ○安定した地域環境や家庭基盤から、児童生徒は純朴で基本的な生活習慣が身に付いている。 ○学校と地域が相互に協力して子どもを育てており、子どもは地域行事等へ積極的に参加する。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	課題解決力	コミュニケーション力	挑戦する力	地域貢献力
		郷土愛と志を持ち、深く考え、仲間とともにやりぬく子ども	○小中合同研修によるパフォーマンス課題を取り入れた「子ども主体の学び」のある単元・授業づくり ○ユネスコスクールとして、ESDの視点で児童生徒が探究し、行動する生活科・総合的な学習の時間 ○21世紀型“スキル&倫理観”の育成をめざす運動会、「夢・志・意見」発表会等の小中合同行事や平素からの小中学生交流			

III 自校

ミッション 「地域の宝」となる子どもを育成する。 ○子ども主体の学びの場を充実させ、児童に学力をつける。 ○児童に当たり前のことが当たり前にできる力をつける。 ○地域と進んで関わり、地域から学び、地域を元気づける力をつける。	学校教育目標 「立志・貢献・郷土愛」	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題解決力	コミュニケーション力	挑戦する力	地域貢献力
現状 ○国の学力調査からみた基礎的な学力や学習習慣は概ね身に付いている。しかし、学年差、教科差、観点差がある。 ○児童は真面目に授業に取り組む。自分でノートに考えを書いたり、発表したりすること、自分たちでゴールを決めて取り組む経験をしているが、全員に定着しているとは言えない。 ○入学から卒業まで同じ集団で過ごすため、お互いのことをよく知っている反面、お互いの見方が固定することでよさを認められていないと思う児童がいる。長期欠席児童はいない。 ○地域の人の交流が多く、学校行事や生活科、総合的な学習の時間に地域が教室、先生が地域の人という学びをすることができる。そのことを通して、自己肯定感を高めていく機会に恵まれている。地域からもよい評価や支援を受けている。 ○教師は意欲的に授業づくりに取り組む。児童の学力向上に熱心である。教職員間に温和で友好的な雰囲気がある。時間外勤務が45時間を超える教職員は半数以上である。 ○1小1中の小中一貫教育が細やかな交流で進められる環境がある。	めざす子ども像 3・4年	考える行動する かかわる 5・6年	1・2年	3・4年	5・6年	
		<ul style="list-style-type: none"> 問題を理解し、それを何とか解決しようとしている。 解決方法を学び、生活の場面に役立てようとしている。 課題を見つけ、既習事項や生活経験を活かして解決しようとしている。 様々な解決方法を知り学習や生活の場面に役立てようとしている。 解決すべき課題を見つけ、情報を比較・分類・関連づけながら、解決までの見通しを持って課題を解決しようとしている。 学んだ解決方法を駆使してよりよい方法で解決し、学習や生活の場に役立てようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを結論先行理由付けをして他者に説明している。 自分の思いを伝え、相手の思いを受けとめている。 自分の考えを結論先行理由付け、相手意識を持って他者に説明している。 自分の考えを進んで伝え、相手の考えを素直に受けとめている。 自分の考えを結論先行理由付け、相手意識を持ってはっきりと説明し、他者の考えを聞いて、よりよい意見へと発展させている。 自分の考えを適切に伝えたり、他者の考えを的確に受けとめたりしながら、互いのよさを認め合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 決められたことを進んで実行している。 友達と協力して、自分の役割を最後までやりきろうとしている。 自分で決めたことを進んで実行している。 友達と励まし合って物事を最後までやりきろうとしている。 目標を決め、失敗を乗り越えながら挑戦している。 他者と協働して、物事をねばり強く最後までやりきろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域のひとと活動し、地域のよさに気付いている。 地域の行事に進んで参加している。 地域のことを体験的に学習し、地域のよさを知っている。 地域の人に喜んでもらえることを考えて実行している。 地域のことを体験的に学習し、地域のよさや課題を伝えようと考えている。 地域の発展のためにできることを考えて実行している。 	
		研究	教科等 理科・生活科・総合的な学習の時間	主題・内容等 「子ども主体の学び」を実現する評価と指導の在り方 ～教科と総合的な学習の時間の「逆向き設計」による単元づくりを通して～		
		めざす授業の姿	学ぶことが面白いと児童が感じる授業 ・自分で考え、判断する授業 ・既習や経験をつないで友達と協働して解決する授業 ・教科の「見方・考え方」を動かして付けたい力がつく授業			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立常金丸小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)			
							□指標に係る取組状況	70%以上達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況	70%以上達成評価	総合評価	改善方策
3	課題解決力を育成する。	★	見直し	授業の中にめざす児童の学びの姿が見られるようにし、学ぶことが面白いという児童の割合を前年度より向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> 児童自らが考えることを主体にした授業づくりを行う。単元シートを活用して付けたい力の進捗を毎月検証し改善策を実行する。 「書く」ことを日常の活動(授業・日記)に位置付けて指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業がよく分かる、授業で考えることが面白いという児童の割合を85%以上、国語・算数・理科の単元末テストの平均点を80点以上にする。 ②自分の考えがノート等で説明できる児童学年に応じた毎日日記を書く児童の割合を85%以上にする。 							
3	コミュニケーション力を育成する。		見直し	対話の場や友達のよさを認め合う場を設定した学級経営を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 授業に対話の場を設定する。伝え合う児童の姿を指導者が共通理解をする。 児童を褒める場、認め合う場を学級経営の中に設定する。学校全体で児童を応援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ③自分の考えが認められているという児童を80%以上にする。 ④自分のよさを認められていると感じている児童の割合を80%以上にする。 							
3	挑戦する力を育成する。		見直し	児童会活動を通して、規律3要素(挨拶・時間・掃除)の達成度を前年度より高める。 児童の健康への関心や新体力テストの県平均以上の項目数を前年度より向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> 児童に目標や方法を決定させ、児童が主体的に取り組ませる。達成したことを喜び合う場をつくる。 課題となる項目の日常的な取組を決め、全校で取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑤集合、掃除、挨拶に達成感の持てる児童の割合を90%以上にする。 ⑥新体力テストで県平均を上回る項目数を70%以上にする。 							

3	地域貢献力を育成する。		見直し	地域から進んで学び、地域のために役立ちたいと思う児童を前年より増やす。	・地域と連携した活動を行い、学んだことを積極的に地域に発信する。	⑦年間を通して地域と連携した学習を行い、地域のために役立ちたいと思う児童の割合を80%以上にする。											
3	教職員の力量を向上させる。	★	見直し	「課題発見・解決学習」の単元づくりを実行する。	・逆向き設計論による授業づくりノートの作成を週5回以上行う。相互の授業評価を活用し、授業改善を実行する。	⑧子ども主体の授業づくりを実践しているという相対的評価指標を3以上にする。											
3	学校組織力を向上させる。	★	見直し	学校課題の克服や自己肯定感の生まれる取組により児童・教職員の充実感、保護者・地域の安心感を高める。	・学校経営目標に自己の役割を確認し、進捗状況を検証して組織で確実にやり遂げる。 ・7時間45分を意識した業務の効率化を進める。 ・学校が取り組んでいることをたよりやHPで積極的に発信する。	⑨学校体制で目標に向かって取り組んでいるという地域の肯定的な評価、学校が楽しいという児童の割合、やりがい、充実感があるという教職員の割合を90%以上にする。											

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。